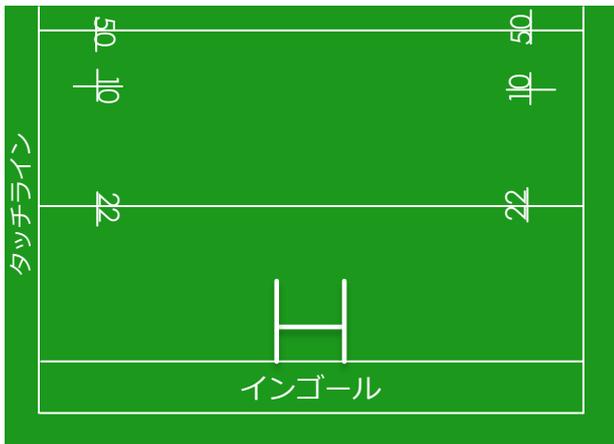


ラグビー

連射パス、休みなしのアクション、頭の衝突音、ラグビーというスポーツは間違いなくスリリングです。2019年日本で開催されたラグビーワールドカップに加え、今年の東京2020大会で7人制ラグビーがオリンピック種目としては第2回目の実施です。そこで、今回はラグビーのルールや見どころ、オリンピックの候補チーム、そして豊橋にゆかりのある選手を紹介させていただきます。



ラグビーの起源はサッカーにあります。18世紀前半、サッカーの試合中に、ある選手がボールを拾って抱えて、ゴールへ走ったということで始まりました。18世紀後半までには正式なスポーツになり、イギリス隣接の国やニュージーランドとオーストラリアで試合が行われていました。1900年パリオリンピックで15人制ラグビーが初めて正式なオリンピックスポーツとして実施され、1924年まで開催されていました。1925年から2015年までラグビーはオリンピック種目となっておらず、2016年里オオリンピックから男女それぞれで7人制ラグビーが実施され始めました。



ラグビーは縦100m幅70mの「ピッチ」という競技場でプレーします。15人制ラグビーでは各チーム15人でプレー、7人制では各チーム7人でプレーします。15人制ラグビーは40分ハーフ、7人制ラグビーはたった7分ハーフです。

ラグビーはアイスホッケーのように、長い間止まらずに続

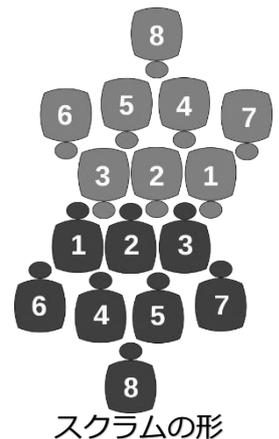
くスポーツです。試合がキックオフで開始されます。この時はボールをキックする前に一度バウンドしないとダメです。基本的にボールを前に運ぶには二つの方法があります。一つはボールを持って進むことで、もう一つはボールをキックすることです。このためのキックはキックオフと違い、バウンドさせる必要はなく、落下する前に蹴る「パント」を使います。

ラグビーではチームメートにパスする時に前へ投げてはいけません。そうすると反則となります。パスだけでなく、選手が前方に落とすことも反則となります。

相手の前進を止めるための最も基本的な守備の技はタックル、ようするにボールを持った相手を倒すために衝突するという意味です。ボールの持っていない選手をタックルすると反則となります。タックルされた選手が倒れずに立ち続け、3人以上がその選手をつかんでボールを奪い合うと「モール」といいます。また地上に転がったボールをそのように奪い合うと「ラック」といいます。

ボールがタッチライン（ピッチの図のように）を越えると、「ラインアウト」でプレーを再開します。ラインアウトとは見たことがある人もいると思いますが、各チームの選手が並んで、タッチの外に出したチームでなく、相手チームが投げ込みます。ボールをとるために選手たちが味方を持ち上げたりもします。

もう一つの再開プレーは「スクラム」です。軽い反則が起こったら行われるスクラムで各チーム8人（7人制は3人）が3列に並び、前の列の選手が相手選手とぶつかり合い、反則を犯していないチームの選手が並んでいる選手の間ボールを入れ、皆が互いに押しながら、ボールを奪い合います。より重い反則が起こったら、相手チームがペナルティキックを与えられますが、ペナルティキックの代わりにスクラムでの再開を選ぶことも出来ます。



ラグビーで得点方法は4つあります。最も点が高く5点となる「トライ」はボールを相手側のインゴールまで持ち込み直地させることです。トライが出来ると追加得点チャンスであるコンバージョンキックも挑戦できます。このキックを決めると2点となります。プレー中でボールを一度バウンドさせてキックし、ゴールポストを通過すること（ドロップゴール）と、ペナルティキックでゴールポストを通過することが3点となります。

東京2020オリンピックでは男女それぞれ7人制ラグビーが東京スタジアムを舞台に開催されます。世界最強の12チームが金メダルを争います。現在その12チームの11チームの出場が内定しており、その中には2016年リオオリンピックを制したフィジー、銀メダルをとったイギリス、それから銅メダル戦で日本を倒した南アフリカがいます。

15人制ラグビーで世界最強だといわれているニュージーランドも出場権を手に入れました。ニュージーランドはリオオリンピックの初戦で日本に負けました。女子ラグビーは現在10チームが内定しており、リオオリンピック優勝のオーストラリア、2位のニュージーランドと3位のカナダは既に出場権を持っています。リオで10位に終わった「サクラセブンズ」と愛称されている女子7人制日本代表は今年開花して大活躍を見せてくれるのでしょうか。

男子日本代表はリオの4位よりも上、メダル獲得を目指しているに違いありません。リオでの善戦を支えた豊橋出身の彦坂匡克選手は東京2020大会の日本代表入りを目指しています。12月に発表された7人制日本代表第2次オリンピックスコッドには東京2020大会出場の可能性が高い選手が載っており、その中に彦坂選手も含まれています。

彦坂選手の出場、そして東京での活躍を応援しましょう！